



幼な心に感じた地域にある学校、そして武蔵野 ～地域と連携した学校教育の充実～

教育委員（教育長職務代理者） 山口 彭子



手元に茶色く古びた通知表があります。「わたくしのあゆみ」と書かれた、私の小学校2年生時のものです。児童名に続く保護者・学校長・担任の欄のすべてに私の父の名前が書かれています。つまり、私は父が校長を務める小学校に通い、2年生の時は父が担任でした。宮崎県の山深い村にある、たったひとつだけの小さな学校でした。校長が担任をしたのは、1・2年生の複式学級を解消するためだったのかもしれませんが。当時、まだ30代の父は、とても厳しかったので、緊張しながら真面目に頑張ったことを覚えています。

この山奥の学校は、村の子どもの教育の場であるとともに村の文化の中心でした。学校の行事は、村全体の催し物です。特に、秋の運動会は、お祭りのような賑わいでした。また、村の夜神楽などには必ず家族全員で出かけました。わらび採りや茶摘み、筍ほり、栗拾いなど四季折々に野山で楽しんだ思い出は、全校の仲良しの友達や村の人たちとのかかわりにつながる懐かしい思い出になっています。このように、学校のすぐ隣にある校長住宅で、村の暮らしと一体となった学校の営みを肌で感じながら過ごした日々でした。

そして、平成元年に武蔵野市の小学校に着任した時、幼な心に感じていた「地域にある学校」の感覚が自然に蘇ってきました。昭和20年代の宮崎の山村と、平成時代の都会化した武蔵野市とは比べようもないはずですが、しかし、武蔵野市に脈々と受け継がれている学校に寄せる熱い想いに、子どもの頃に味わった同じ空気を感じたのです。

多様な文化や豊かな緑の環境に恵まれた武蔵野市では、自分の街への誇りや愛着をもって魅力ある地域社会が築かれてきています。そして、その想いや活力は、子どもたちの教育にも活かされています。地域の子どもの慈しみ、健やかな成長を願う心が、地域の学校への愛情や地域の力で子どもを見守る温かさとなり、PTA・開かれた学校づくり協議会・青少年問題協議会をはじめ、様々な関係機関の組織だった学校支援となっています。

さて、本年度から各小中学校の「武蔵野市地域コーディネーター」の活動が始まりました。学びの内容や方法が多様になっている今日、教育活動に地域の力を効果的に活かすことが重視されています。地域コーディネーターは、学校への協力者の紹介や派遣の調整などを行って、地域の教育力と学校とをつなぐ大事な役割を担います。それぞれの関係組織や地域の方々のご協力のもとに、教育推進室の「学校支援コーディネーター」と連携を図りながら、地域コーディネーターが活躍することを大いに期待し、応援していきます。

子どもは、本物を見抜く力にすぐれています。その道のプロやその事に経験を積んだ人に直に接したとき、目を輝かせ意欲を高めて真剣に学びます。地域コーディネーターの支援を受け、地域の方がもつ専門性と教師の指導力との協働で質の高い豊かな学習が実現することでしょう。武蔵野市の宝であるさまざまな教育資源が子どもたちの学習に活かされて継承されるとともに、子どもたちと地域の方々とのふれあいが一層深まるのも楽しみです。

5月20日 誕生しました！

武蔵野市地域コーディネーター

平成18年12月、60年ぶりに教育基本法が改正されました。新しい時代にふさわしく改正されたその中で、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力として、第十三条の規定「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」が新設されました。

本市の第五期長期計画でも「学校と地域の協働体制の充実」を施策に取り上げ、第二期武蔵野市学校教育計画で「学校と地域が一体となり取り組む教育を推進します。」と目標を掲げています。

著しく変化する社会の中で、学校が抱える課題も複雑・多様化するとともに、地域社会の支え合いは希薄化し、家庭は孤立化しています。このような状況の中で、学校と保護者・地域の皆様が目標を共有し、一体となって子どもたちを育むことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長をも促し、ひいては地域の絆を深め、地域づくりの担い手を育てていくこととなります。

本市ではこれまでも学校に対し、地域の方々から様々な支援をいただいています。しかし、先生方が地域の方の力を借りたいと思っても、どなたにどのように頼んだら良いか分からなかったり、連絡調整の時間等を考えると、しり込みしてしまったりしたこともあるでしょう。新たに赴任してきた先生は、地域をまだよく知らないために、依頼そのものが難しい場合もあります。このようなときに活躍するのが、地域コーディネーターです。地域コーディネーターは学校にとって大切なパートナーであり、重要な教育力のひとつとなるでしょう。



地域コーディネーター研修会／グループワーク

地域コーディネーターは、学校からの依頼に、支援するボランティアのコーディネートや連絡調整など、学校と地域を結ぶ役割を果たします。しかしそれには、PTAや開かれた学校づくり協議会、青少年問題協議会等の皆様のご協力やご支援が不可欠です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

今後、教育推進室では連絡会等を開催し、学校ごとの地域の協力者の発掘や活用状況等について情報交換等を行い、互いに協力し合い、支援する力を高めていく予定です。また、現在、多くの企業、大学等が学校支援の出前授業等のプログラムを用意しています。それらについても調査・研究し、学校へ企画提案できるよう研修も行う予定です。学校の教育活動の支援や、教員の多忙化の解消をめざし活動していく地域コーディネーターにご期待いただくとともに、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成28年度 地域コーディネーター

敬称略

学校名	コーディネーター
第一小学校	平田 由美子
第二小学校	後藤 肇
第三小学校	垣原 睦恵
第四小学校	大矢 龍子
第五小学校	藤井 陽子
大野田小学校	市川 祐子
境南小学校	大矢 照男
本宿小学校	高木 須磨子
千川小学校	伊藤 さつき
井之頭小学校	亀井 誓子
関前南小学校	島田 豊文
桜野小学校	後藤 真澄
第一中学校	本郷 伸一
第二中学校	土屋 清枝
第三中学校	足立 恵子
第四中学校	寺島 芙美子
第五中学校	秋山 聡
第六中学校	大谷 壽子

平成 28 年度「開かれた学校づくり協議会」委員委嘱状交付式 「武蔵野市小中連携教育推進委員会報告書」の説明等、主要事業を報告

「開かれた学校づくり協議会」は学校運営（学習指導や学校行事等の教育活動に関する事、児童及び生徒の指導に関する事など）に関して、地域、保護者等から広く意見を求め、地域社会に開かれた特色ある学校づくりを進めるために、平成 13 年 4 月から各学校に設置された協議会です。

平成 28 年 5 月 20 日（金）、全小中学校 18 校の校長に推薦された委員の方々に宮崎活志教育長から委嘱状を交付しました。その後、教育委員会事務局から平成 28 年度の教育委員会の主要施策等について説明を行いました。

指田和浩指導課長からは、武蔵野市における小中一貫教育について、武蔵野市小中連携教育推進委員会報告書（平成 28 年 2 月）の内容を説明いたしました。

小中一貫教育については、6 月下旬から 7 月初旬にかけて、7 回開催した「未来の学校を考える市民意見交換会」でも、市民の皆様からご意見を伺いました。今後も、皆様にいただいたご意見等を踏まえ、教育部内のワーキングチームや各学校で調査・研究を行うなどしながら、市・教育委員会としての方針を決定していく予定です。



委嘱状交付式の様子



宮崎教育長あいさつ

武蔵野市 ALT について

市内の公立小学校で御活躍いただいている ALT の先生方です。なお、郭 芳 先生は 7 月から、新しくお力添えいただいております。どうぞよろしくお願いたします。

ALT は、Assistant Language Teacher の略です。小学校の 5 年生と 6 年生が学習している「外国語活動」では、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うことがその目的の一つになっています。

また、武蔵野市では、小学校 4 年生でも「英語活動」を学校ごとの計画に基づいて 10 時間程度、実施しています。

「外国語活動」「英語活動」のどちらの学習の時間でも学級担任とともに ALT が活躍しています。

外国語を通じて、言葉や文化について、体験的に理解を深め、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図っています。



ラグィンティン イデン 先生
担当校
第二小、境南小、桜野小



ベジョ ディエゴ 先生
担当校
第三小、第四小、本宿小



フルザンメル バクティア 先生
担当校
第一小、大野田小、千川小、
関前南小



郭(ファン) 芳 先生
担当校
第五小、井之頭小

シリーズ『初任の先生“今日もがんばる！”』<その7>

今年度の初任者研修の受講生は25名です。このように多くの新規採用教員が採用されはじめてから10年くらいとなり、どの学校でも若手教員の活気ある声が聞こえています。

さて、本市で初任者としてのスタートをきった先生方も3か月余りが経過しました。その間の4月、5月の研修会では「公務員としての



中学校分科会での研修会の様子

の服務」「人権教育」「道徳教育」「社会人としての接遇」等を学んできました。ここでは、第3回目となる6月17日に実施された研修会の様子をご紹介します。

前半は指導主事を講師に「安全指導」をテーマに全体研修を行いました。具体的には学校での児童生徒の生命や心身等に危害を及ぼす可能性のある様々なことごとについて、事例を通して、その内容と対応の仕方を

学びました。後半は、小学校と中学校に分かれ、それぞれ教育アドバイザーを講師に分科会研修を行いました。小学校分科会では「学級経営について」をテーマに講義を受け、その後は演習として模擬学級会を行い、児童の視点に立って、具体的な指導法について研修を行いました。中学校分科会では「生活指導について」をテーマに講義を受け、その後はいじめへの組織的対応についての事例研究をしました。少人数での話し合いとなったので、一人一人活発に発言し、議論し合う研修となりました。教壇に立ち4か月。いよいよ1学期のまとめを迎える時期となりました。8月には初任の先生で2泊3日にわたる宿泊研修を実施します。2学期は、さらに成長した姿を見せてくれることでしょう。



小学校分科会での研修会の様子

世界ともだち プロジェクト

出前授業いたします

～地域で活躍している団体紹介 <その6>～

武蔵野ブラショフ市民の会（理事長 渡部 法雄）



ルーマニア大使館の皆さんと会員との研修会
※中央に ラドゥ シェルバン 在日ルーマニア大使



ザンフィル コリナさん
今年6月、高校卒業時に

平成4年、ルーマニア ブラショフ市の国立ジョルジュ デュマ交響楽団（現ブラショフ フィルハーモニック オーケストラ）の指揮者曾我 大介氏（武蔵野在住）から、革命後混乱が続き疲弊した同楽団を救済して欲しいと要請され、武蔵野市が中心となって同楽団を招聘しました。その時に支援したボランティア等が中心となり、同年10月に武蔵野ブラショフ市民の会が結成され、今日に至っています。会員が毎年のようにブラショフ市を訪れ、同市に両市で開設した「日本武蔵野センター」を訪問し交流しています。また、同市からは毎年研修生1名を招聘し親交を深めているそうです。この研修生の招聘は今回で17年目となり、今年は8月25日から1か月半、ザンフィル コリナさんが大学入学前の期間を利用して来日します。市内のいくつかの小中学校を訪問し交流を深めたい、と楽しみにしているようです。

ルーマニア人の日本文化に対する関心は高く、空手や剣道の道場が市中にあります。また、若い人たちの間では、やはりアニメの人気は高く、聞いたこともないような日本のアニメ作品を逆に教えられることもあるそうです。

お問い合わせは、教育推進室または同会副理事長の平井さんへお電話を。

教育推進室 電話：0422-60-1241、FAX：0422-51-5113
平井副理事長 電話&FAX：0422-43-4421

Bună Ziua

（ブナ ジュー）



こんにちは

【お知らせ】

今回の教育推進室だよりでお気付きの点やご意見がありましたら、教育推進室までお寄せください。次号は、タブレットによる授業や市内中学校総合体育大会等について紹介する予定です。